

平成28年第3回燕市議会定例会
一般質問日程表

質問日		質問者			質問方式	
					一括質問	一問一答
9月12日(月)	午前	1	渡邊 雄三 議員		○	
	午後	2	齋藤 信行 議員	○		
		3	大岩 勉 議員		○	
		4	山本 知克 議員		○	
13日(火)	午前	5	タナカ・キン 議員		○	
		6	堀 勝重 議員		○	
	午後	7	埴 豊 議員		○	
		8	樋浦 恵美 議員		○	
		9	渡邊 広宣 議員		○	
14日(水)	午前	10	土田 昇 議員		○	
		11	山崎 雅男 議員		○	
	午後	12	藤井 秀人 議員		○	
		13	小林 由明 議員		○	
		14	大原 伊一 議員	○		
15日(木)	午前	15	長井由喜雄 議員		○	
		16	柳川 隆 議員		○	
	午後	17	吉田 勝利 議員		○	
		18	宮路 敏裕 議員		○	
		19	山崎 光男 議員		○	

平成28年第3回燕市議会定例会「一般質問表」

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
1	渡邊雄三 (一問一答方式)	1. 高齢者福祉について	(1) 介護用具・住宅改修の受領委任払い制度について	①介護用具購入・住宅改修支払い方法について現状を伺いたい。 ②今後、増々高齢化が進むことが見込まれる中、本制度を利用される高齢者も増加傾向にあると考えます。要支援者・要介護者の負担軽減、市民サービス向上の観点からも利用者本人の経済状況に合わせた支払い(償還払い・受領委任払い)選択制を導入してもらいたいと考えを伺いたい。
			(2) 地域支え合い体制支援事業について	①地域支え合い体制支援事業の直近までの実績、マッチング件数と活動内容について伺いたい。 ②支援を必要としている高齢者に浸透していないとの指摘もあるがその認識と今後の取り組みを伺いたい。 ③今後、関係者、関係団体との横の連携が大切と思うがどのように進めているのか伺いたい。
		2. 自主財源確保について	(1) 広告事業の拡充について	①広告事業の現状と今後の取り組みについて伺いたい。 ②自主財源の一つとして広報誌、印刷物、ホームページのバナー広告事業拡大とともに公用車、市所有施設等燕市のあらゆる資産を広告媒体として有効活用して自主財源確保とともに市民サービスの向上に取り組むべきと思うと考えを伺いたい。 ③公共施設へのネーミングライツ(命名権)売却による収入確保について考えを伺いたい。
		3. 燕市観光・防災Wi-Fiステーションについて	(1) 燕市観光・防災Wi-Fiステーションの運用について	①これまでの実績と反響について伺いたい。 ②市民の方に燕市観光・防災Wi-Fiステーション機能をもっと周知すべきと思うと考えを伺いたい。
		4. 公共施設等総合管理計画について	(1) 借地と公共施設について	①借地の上に建てた公共施設など建築物や構築物の用途別件数を伺いたい。 ②それらにかかる用途別年間予算について伺いたい。 ③今後の取り組みについて伺いたい。
2	齋藤信行 (一括質問一括答弁方式)	1. 市民との対話・対応のあり方について	(1) 市長とのふれあいトークの実施状況等について	①昨年9月の一般質問で、ふれあいトークは平成26年度から3年をかけて市内全域を巡回するとのことでしたが、最終年度となった今年の実施状況、2カ年にわたり説明されてきた「水道事業」について市はどう評価しているか伺います。 ②高齢者など遠い会場へ出向けない市民との対話について、自治会単位での開催を提案したいと思いますが、平成29年度以降の実施のあり方について考えを伺います。 ③市長との対話に高齢者に対するふれあいトークの開催も提案したいと思いますが、市長の考えを伺います。

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
2	齋藤 信行 (一括質問一括答弁方式)	1. 市民との対話・対応のあり方について	(2) 高齢者等への対応のあり方について	①車に乗れない高齢者等から、市役所が遠くなり手続きなど非常に不便になったとの声などが多く寄せられています。サービスコーナーでの取扱事務の拡充は、これまでの経緯を踏まえると難しいものがあるものと認識していますが、住民票・税務関係や「スワロー号・おでかけきららん号」の利用の仕方など、高齢者などからの相談・対応を一元化した専門課の設置を提案したいと思いますが考えを伺います。
			(3) 一般市民への税務関係等の証明書のサービスについて	①一般市民の中でも、市役所が遠くなり、本庁でなければ対応できない証明書等があると伺いました。それで、今現在の実施状況はどうか。今後どの程度まで休日・時間外の対応など住民サービスをどのように考えているのか伺います。
		2. 「午前5時間制」事業について	(1) 「午前5時間制」事業と取り組み状況について	①今年7月27日に総務文教常任委員会で静岡県焼津市の市立和田小学校の曾根校長をはじめ担当者から説明を受けました。それは、午前5時間制は45分の授業5コマを給食まで行う仕組み。年間授業数は低学年で平均50時間、高学年で45時間増加し、集中力の向上などにもつながると言うことでした。市教育委員会ではこの取り組みについて市の状況を考えた場合、事業としてはどうなのかを伺います。
3	大岩 勉 (一問一答方式)	1. 市長の政治姿勢について	(1) 新潟県知事選挙について	①政治家として、選挙の厳しさと洗礼を認識されているのか支援支持するなら「因循姑息」でなく、態度を「一瀉千里」のごとく率先明確にするべきと思うが市長の考えを伺う。 ②県知事選挙に対し、燕市の産業界や県議会議員・医師会などと同じ歩調を取るべきではないか。県政政策発表会出席者の顔ぶれは燕市長の選挙母体同様と思われませんが市長の考えを伺う。 ③小学校の運動会じゃありません、赤も白も両方頑張れはありません。大きな政治家になるためには「乾坤一擲」な態度を表明することも大切と思うが市長の考えを伺う。
			2. 教育問題について	(1) 燕市総合教育会議について
			(2) 文部科学省の学校指導体制構想について	①文部科学省の中長期的学校指導体制構想の全容では、「次世代の学校」指導体制実現構想との名称で、教職員増のほか授業や部活動など教員が担う役割を明確にするとともに、負担軽減を目指す方針が示されましたが、燕市の実情と取り組みについて伺う。
	3. 燕市選挙管理委員会の姿勢について	(1) 参議院選挙における燕市選挙管理委員会について	①燕市選挙管理委員会の開票報告は、なぜいつも同じように他市町村より遅いのか伺う。 ②投票率を燕市選挙管理委員会として納得する数値なのかどのように取られているのか。期間中に寄せられた違反通報件数はどのようなものがあつたのか伺う。 ③期日前投票所を3地区やショッピングセンターなどに開設するべきと思うが、燕市役所の期日前投票所立会人の冷淡な態度の悪さは直せないのか伺う。	

発言の順序	発言する員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
4	山本知克 (一問一答方式)	1. 産業発展のために	(1) 観光資源として	<p>本年2月、東京ギフトショーへ伺った際に感じたことから質問いたします。東京ビッグサイトで開かれる同見本市は、ショップ、百貨店、専門店、卸売業者など40万人のバイヤーが全国規模で集まり、広大な展示会場の中で、業種の垣根を越えた商談の場をみると、各ブースとも思考をこらし最大限のアピールを行っており、創意工夫にあふれた製品を観て、製品の価値、ものづくりの製造工程は改めて観光資源となり得ることを感ずるとともに、目指すマーケットの大きさに感動し、さらなる産業の発展を願い質問いたします。</p> <p>①積極的に活用されている、見本市出展小間料補助金制度を活用されての出展だと思われるが、実績（直近3年）と今後について伺います。</p> <p>②市内事業所がまとまった区画を確保して、金属ハウスウェアや金属洋食器・包丁などの展示がまとまってあり小気味よさを覚えたが、せっかくの金属酒器も展示だけで手に取っていただけていないように思えた。 金属酒器乾杯運動を進めるために、ビアタンブラーの貸し出しを、商工会議所で行っているが、2月「開催分」のこの展示会では、ぐい呑みをバイヤーの皆様から試していただけないものか改めて感じたので、弥彦を含め地元の酒蔵の協力を得て製品の価値を広く知っていただくためにも、試用による宣伝を燕製品の広告を考えブース全体で行えないものか伺います。</p> <p>③産業観光を考えると、現在自社で展示場を持つ会社も増えており、工場の祭典では見学者も増えている。 通年観光を考えると、食品会社やビール工場など見学コースを持つ会社もあり、燕のプレスや溶接・鍛造技術等も見学可能であれば十分に観光資源として魅力が発信できると思われる。ものづくり現場力強化事業に関連して、オープンファクトリー化の呼びかけや、支援はどのようなになっているか伺います。</p>
		2. 食育推進計画について	(1) 食生活の啓発・広報について	<p>①肥満は運動不足と合わせ、高血圧や高脂血症を招き、さまざまな生活習慣病の原因となり、働き盛りの男性の3人に1人程度が体に赤信号を点滅させながら生活していると言われるが、燕市の実態はどうか伺います。</p> <p>②年齢や性別によっても、必要な摂取カロリーには幅があるものの、適正な摂取カロリーとともにバランスのとれた食生活が大切であると考え。健康と生活習慣病予防のためには、年齢や性別、運動量を踏まえた食生活について啓発していく必要があると思うが、どのように考えているか伺います。</p> <p>③食生活改善を考えると、食育の啓発にはさまざまな機会を捉えた働きかけが必要であると考え。市民の食に対する意識向上のため、実際の啓発活動について伺います。</p> <p>④食育推進プランは平成24年度～平成28年度までを計画期間とし、平成28年度は最終年度となり最終的な評価はまだであるが、中間点としてどのような評価になるのか伺います。 (次ページへ続く)</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
4	山本知克 (一問一答方式)	2. 食育推進計画について	(1) 食生活の啓発・広報について	⑤次期食育推進プランでは、掲載のない適正な食事量やカロリー過多がもたらす弊害などについて記載することも必要かと考えます。また、つばめ食育だよりも掲示方式ではなく、パンフレットへ変更するなど、市民に持ち帰っていただけるようにしてはどうか伺います。
		3. 高齢者の健康と介護予防について	(1) 廃用性症候群、対応の一つとして	①高齢者の転倒事故や骨折について考えると、体を支える筋力の低下が第一と言われている。 筋肉量は30歳ごろがピークであり、その後は加齢とともに低下し、筋肉量と筋力の低下と反射神経の低下が「転倒事故」の原因とされているが、介護予防の観点からどのように考えているのか伺います。 ②寝たきりの原因としては身体的な虚弱だけでなく、認知機能の低下やうつといった精神心理的なもの、高齢者社会を迎え貧困や独居など社会的な孤立があげられ、一日中やることなく、意欲低下により体を極端に動かさなくなることも原因であると言われるが、どのように考えているのか伺います。
5	タナカ・キン (一問一答方式)	1. 子どもの貧困について	(1) 子どもの貧困について	①子どもの貧困が大きな社会問題になっている。 わが国では今や6人に1人の子どもが貧困のもとで暮らしていると言われている。そして、育児放棄も含む児童虐待の対応件数も年間7万件に及び、年間120名の子どもたちが児童虐待で命をなくしている現状がある。 また、4月14日付の朝日新聞によれば、ユニセフがまとめた子どもの貧困格差が日本は先進41カ国の中で34位と、悪い方から8番目だという。これらを見ても国としても今後の重要課題といえる。子どもの貧困について燕市の現状はどうか伺う。
		2. 文化事業について	(1) 市展について	①市展も合併後11回を数え、そのポスターが貼り出されている。しかし、このポスターがさえないのである。ポスター製作にあたっては、市展の各部門の人たちが持ち回りで製作していると伺っている。 ポスターはグラフィックデザインの部門である。したがって、それぞれの部門では専門であっても、ポスターとなると専門外の間人が担当しているのが現状である。 市展のポスターは出品者を募るだけでなく、燕市の文化度を内外に発信する意味もある。燕市は「モノづくりのまち」であり、グラフィックデザイン界の巨匠・亀倉雄策氏の出身地でもある。であれば、もっとすぐれたポスターを作る工夫や努力をするべきではないか伺う。
		3. 自治体におけるリスクについて	(1) 管理対象となる危機の扱いについて	①リスクについて、大きなものでは震災や風水害等や原子力災害が考えられる。 また、庁舎や市の管理する施設等における事故や事件、職員による事故や事件も含まれ、細かく挙げればキリが無いくらい多くのリスクがある。これらにおける事故や事件が発生したら議会に対してすみやかに報告する義務があると思うが伺う。 (次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
5	タナカ・キン (一問一答方式)	3. 自治体におけるリスクについて	(1)管理対象となる危機の扱いについて	②その報告であるが、今までも議会に対して報告だけで質問を受けないという態度も見られるが、どういう時、どういうものに対して報告だけで済まそうとするのか伺う。 ③そして、それらは、他の自治体も同じなのか、それとも燕市だけなのか伺う。
		4. 「道の駅」構想について	(1)「道の駅」構想について	①6月議会の一般質問の答弁で、新しく「道の駅」になった燕三条地場産業振興センターや、「国上道の駅」を視察していないことがわかった。県央大橋西詰周辺地域整備計画は総事業費が17億円と見込まれている。その事業の目玉ともなる「道の駅」構想が、大した調査も行わずに進めようとしていることは大きな問題である。なぜ調査を行わなかったのか伺う。 ②全国に道の駅は多数あるが、成功例は少ないと思える。市が考える事業の成功とはどういうことか伺う。
6	堀 勝重 (一問一答方式)	1. 地域に根ざした子育て支援の充実について	(1) 少子化対策と連動した子育て支援について	少子化対策については、以前に何回か一般質問してきたところでありますが、昨年の「つばコンi n恋花火大会」を実施した結果、11組のカップルが誕生し、そのうち3組が結婚に結びついたとお聞きし大変喜ばしいことであると思っているところであります。第2次燕市総合計画においては、平成34年における目標人口を78,000人としており、同年の出生率は1.65となっております。今後もさまざまな施策の展開により、男女が結婚に結びつくことで少子化対策の一助になり、人口減少に歯止めがかかることを期待しております。 一方で、現在子育て中の方々、特に3人、4人の子どもを育てている方の話しをお聞きすると、子どもを育てていくためには教育費や食費、医療費等、多くのお金が必要であるため、経済的にとても苦しい状況にあるとのことであります。そこで、小項目 ①現在、子育て中の方々に対する支援の現状について伺います。 ②今後、負担軽減のため、新たな助成や取り組み等、少子化対策と連動させた、より充実した子育て支援の施策が必要であると思うが、市の考えを伺います。
		2. 福祉の充実について	(1) 精神保健福祉の充実について	平成28年7月26日未明に、神奈川県相模原市の障害者施設で19人が殺害されるという痛ましい事件が発生しました。この事件の被疑者は、「非社会性パーソナリティ障害」や「妄想性障害」等と診断され、一時措置入院となったものの、指定医は「症状の改善が優先」などとして警察には通報せず、相模原市は3月2日、医師が「他人に危害を加える恐れがなくなった」と診断したため被疑者を退院させ、家族による見守りを行うこととなっていました。実際には家族がかかわらず、その後、事件を起こすこととなりました。そこで、小項目 ①相模原市の事件発生後、本市においてこのような事件に対する不安や問い合わせ、通報等の状況について伺います。 (次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
6	堀 勝重 (一問一答方式)	2. 福祉の充実について	(1) 精神保健福祉の充実について	<p>②総合相談窓口の業務内容と相談対応の実態について伺います。</p> <p>③精神疾患を患っている方を、医療へ結びつける当市の現在の対応や体制について伺います。</p> <p>④相模原市の事件を受け、政府は再発防止に向けて措置入院の制度や運用が適切であったか再検証し、必要な対策を検討していくとしているが、当市においても、安心・安全なまちづくりに向け、市民が安心して生活できるよう、今まで以上に一步踏み込んだ、当市独自の新たな体制づくりや取り組みを早急に考えていくべきではないかと思うが、市の考えを伺います。</p>
		3. 学校教育について	(1) 中学校における運動部活動について	<p>平成 27 年 12 月議会の一般質問で、部活動の終了時刻、休養日等の現状、顧問及び副顧問不在時の対応、体罰等、部活動の果たす役割等について教育委員会の考えを伺ったところ、教育長からは「市教育委員会では今後も各学校の部活動が校長のリーダーシップのもと、組織的、計画的に行われるよう指導に努めてまいります」ということでありました。</p> <p>また、主幹からは「部活動が過激にならない、過熱にならないようなことで私たちのほうも指導している」とのことでありました。そこで、小項目</p> <p>①これらのことについて、現在の指導状況を伺います。</p> <p>次に、運動部活動で練習試合や遠征などに時間とお金がかかり、精神的、経済的に苦しい状況にあると複数の方から聞いたことがあります。一方でまったくそういったことがない旨の話しを他校の方からも聞いています。</p> <p>学習指導要領では、運動部活動は学校教育の一環として教育活動の連携が図られるよう留意することと掲載されております。そこで、小項目</p> <p>②同じ教育の場において、学校や部によってこのように違った現状となっていることについて、教育委員会の考えを伺います。</p>
7	埴 豊 (一問一答方式)	1. 公会計制度導入について	(1) 平成 29 年度よりの公会計制度導入について	<p>①職員及びシステム上での現状について</p> <p>②市民及び議会への周知について</p> <p>③現在の会計手法との差異について</p>
		2. 遊休資産の活用について	(1) 「ビジョンよしだ」隣接地及び道路としての土地活用について	<p>①燕市が取得した「ビジョンよしだ」隣接の活用方法について</p> <p>②土地開発後の「残地」について</p> <p>③道路として造成後の残地について</p>
		3. 教育について	(1) 部活動の有り方について	<p>①部活指導の有り方について</p> <p>②学習と運動系部活の両立について</p>
		(2) 燕地域の高校再編問題について	①燕市としての県への要望、対処方針について	

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)	
8	樋浦 恵美 (一問一答方式)	1. 災害対策について	(1)被災者台帳「被災者支援システム」の導入について	<p>①被災者台帳とは災害が発生した場合、被災者の援護を総合的かつ効果的に実施するための基礎となる台帳です。</p> <p>被災者台帳を導入することによって、被災者の状況を的確に把握し、迅速な対応が可能になる他、被災者が何度も申請を行わずに済む等、被災者の負担軽減が期待されています。</p> <p>被災者台帳の先進事例の一つとして、1995年の阪神・淡路大震災で壊滅的な被害を受けた兵庫県西宮市が独自に開発した「被災者支援システム」は、現在、地方公共団体情報システム機構の「被災者支援システム全国サポートセンター」において、全国の地方公共団体に無償で公開・提供されています。</p> <p>いつ起こるかわからない災害に対し、平時のうちに導入していくべきであると思いますが、本市の考えを伺います。</p>	
			(2)学校施設の防災機能について	<p>①学校施設は教育の場のみならず、災害時における地域住民の避難所としての役割を担っています。避難所となった学校では、電気や水の確保などが重要であります。</p> <p>本市の学校施設には、水を確保する設備や停電に備えた自家発電設備があるのか、学校施設の防災機能の実態について伺います。</p>	
			(3)災害用マンホールトイレの整備について	<p>①多くの人が集まる避難所において、トイレ環境を確保することが、避難者の安心感につながると考えます。</p> <p>災害時に屋外トイレとして使用できる、下水道管に直結した災害用マンホールトイレの整備も効果的であると思いますが、本市の考えを伺います。</p>	
		2. 福祉施策について	(1)地域で取り組む「ひきこもり」の社会復帰支援について	<p>①現役世代の不就労者・ひきこもりの増加は高齢家庭の負担となり、近年ではひきこもりの高齢化が進んでいます。</p> <p>ひきこもりを抱える親がすでに高齢化しており、子どもが社会復帰できない、または、不就労の状況が続き、生活困窮に至る世帯となることも予想されます。</p> <p>平成27年4月に生活困窮者自立支援法が施行され、ひきこもり支援が枠組みの中に位置づけられました。住み慣れた地域での相談体制、多機関連携による支援体制はどのようになっているのか、本市の現状について伺います。</p>	
			1. 燕市商工観光について	(1)工業統計調査結果について	<p>①結果について主要因を伺う。</p> <p>②結果から次の施策について伺う。</p> <p>③市の企業振興策(支援策)の寄与度、貢献度の費用対効果を伺う。</p>
				(2)商工観光概要について	<p>①商業の業種別概要から伺える実態と今後行政が推進すべき施策を伺う。</p> <p>②地域産業観光の取り組みの総括を伺う。</p>
9	渡邊 広宣 (一問一答方式)	2. 国保財政について	(1)国保財政について	<p>①国保医療費分析の結果についての報告から次年度以降の取るべき施策について伺う。</p> <p>②高額薬の増加が医療費を押し上げているが燕市の現状について</p> <p>③高額医薬品が国保財政を圧迫する懸念がある中、被保険者の公平性から次年度、一般会計からの繰り入れも検討されるかを伺う。</p>	
				(次ページへ続く)	

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
9	渡邊 広宣 (一問一答方式)	3. 貧困問題について	(1) 子どもの貧困について	①以前、子どもの貧困について一般質問したが、その後、詳細な実態調査がされたか、又、その結果取りうる施策は検討、計画されたかを伺う。
			(2) 高齢者の貧困について	①最近、子どもの貧困問題と同じく高齢者の貧困問題も多く取り上げられている。燕市の定義づけと実態把握しているか伺う。 ②子どもの貧困と高齢者の貧困は関連をもつものと認識するが行政の考えと今後について伺う。
10	土田 昇 (一問一答方式)	1. 農業問題について	(1) 本年度の米価について	①今年の米価の仮渡し金(60キロ当り)800円～1,100円増額と新聞報道されましたが、その大きな要因として飼料用米への生産転換が全国的に進み、主食米の需給が、供給過剰の状態から均衡に向かっていることなどを考慮して増額するとしているが、燕市では昨年のお豆、備蓄米、加工米、飼料用米の作付面積と今年の作付面積について伺う。お豆と飼料米の金額についても伺う。 ②2018年度より米の生産調整(減反)の廃止が控えているが、お豆、備蓄米、加工米、飼料米への補助金については、今より充実させる方向で努力しないと、一般米の作付面積が多くなり、現状より米価が引き下がることを農家の方々は心配している。その対策等々についてJAと情報交換しながら農家経済の向上に燕市として立案すべきときがくると考えるが、その対策等々について伺う。 ③輸出用コメ産地育成で、JA越後中央とJAにいがた南蒲の管内5カ所に約4ヘクタールの実証田を設けて50～60トン程度の収穫を見込んでいるし、2014年度に輸出された県産米は、前年度と対比して約1.5倍の1,062トンとコメの輸出は増加傾向になってきているし、今後は「新潟米輸出推進協議会」を設立し、今年の輸出目標を2千トン、17年度2,500トン、18年度3千トンと徐々に増加させるとしている。燕市としても積極的に発言し行動するときがきていると思うが、輸出米に対する今後の対応について伺う。 ④昨年度の「農地中間管理機構」による農地の集約化についてはどのような状況か伺う。また、今後の見通しも含めて伺う。 ⑤農地の賃借料の見直しが今後求められてくる可能性が十分あると思うが、基本的な認識について伺う。

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
10	土田昇 (一問一答方式)	2. 児童虐待防止法について	(1) 県内の状況と市の状況について	<p>①新潟県内の児童相談所(県内6カ所)が児童虐待の相談を受けて対応した件数は昨年度で1,438件で2年連続で過去最多を更新したと発表いたしました。</p> <p>その内容については脅しや無視などの心理的虐待が703件49%で最も多く、身体的虐待は382件、後は子育てを放棄する「ネグレクト」が345件で、虐待を受けた子どもの年齢は就学前が589件(41%)、小学生が512件で(36%)、中学生234件(16%)で、小さな子どもさんに多い傾向があると報道されました。</p> <p>燕市では児童虐待があったのか、なかったのか伺うし、もし虐待があったならばどのように対処、対応したのか伺う。</p> <p>②過去の問題点として新聞報道では(2014年、11月の件)事件の2カ月前に育児の悩みを市に相談してきているし、市としても保育所を中心として指導や見守りなど支援してきたと評価しています。</p> <p>今後の問題点として報告書ではどのように指摘されていたのか伺う。(5月14日の新聞報道に沿って伺います。)</p>
11	山崎雅男 (一問一答方式)	1. 吉田南地区の用途地域拡大について	(1) 農業振興地域から除外について	<p>①限りある土地を有効に活用し、秩序ある開発や公共用地として計画的な土地利用は行政にとって大切なこと。</p> <p>吉田南地区、吉田南地区協議会でのまちづくりの力点として、実現のための周辺土地利用を考慮した計画的な土地利用を推進。</p> <p>宅地化の進む吉田西太田地区周辺の市街地に囲まれた農地では、周辺土地利用を考慮した計画的な土地利用に向け、地区住民とともに検討している中で、吉田南地区約8.6ヘクタール農地を農業振興地域から除外しての用途地域拡大について地権者説明会が行われたが、目的と取り組み内容を伺う。</p> <p>②吉田南地区の用途地域拡大の背景と、今日までの経過について伺う。</p> <p>③吉田南地区農振除外用地拡大予定地の今後の取り組み内容について伺う。</p>
		2. 障がい児・者に対する環境について	(1) 障がい者に対する事業所受け入れ状況について	<p>①障がい福祉サービス事業所「すきっぷ」</p> <p>旧吉田八千代保育園を市より借り受け、生活介護事業と就労継続支援B型事業活動に取り組んでいる。知的・精神・身体の不障がいを対象とした受け入れを行っており、利用者の多くは重度障がい者の方である。</p> <p>日中活動の生活介護支援にも取り組んでいる事業所でもあり、年々事業所利用希望が増えている。特に支援学校より利用希望が多く、定員数を増やして在宅者を減らし、障がい者への自立・生活・職業支援に力を注いでいる。受け入れ可能にするためにも老朽化が進み、度重なる雨漏りで修繕費が嵩む旧保育園建物を解体して、建物を新設するにあたり、社会福祉施設等整備費国庫補助金申請を市より指導受け実施。</p> <p>(次ページへ続く)</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
11	山崎 雅男 (一問一答方式)	2. 障がい児・者に対する環境について	(1)障がい者に対する事業所受け入れ状況について	<p>国庫補助金満額の場合、工事金額が建物本体工事等事業費 9,212 万 4,000 円。国庫補助金金額国県で 6,299 万 4,000 円。市が 1,049 万 9,000 円で、事業所「すきっぷ」自己負担額 1,863 万 1,000 円から国庫補助金約 30%減額で自己負担額 2,773 万 9,000 円が示され、910 万 8,000 円の差額が生じたが、どのような理由内容なのか伺う。また対応策を講じることはできないのか。</p> <p>②障がい福祉計画の推進にあたり、行政だけではなく障がい者やその家族、そして障がい福祉サービスを提供する事業所との緊密な連携のもとに進められるべきことと思う。サービス見込み量だけでなく、目標に向かっての観点から市の実情を踏まえた具体的な方策を定めるべきかと思われるが見解を伺う。</p> <p>③障がい児・者の将来について切実な思いを抱いているのは障がい者の家族である。提供すべき福祉サービスについて、現場に則した改善すべき情報を知り得るのはそれぞれの事業所で、基本となるべきは地域における障がい者の実情と実態を的確に把握することであるが、見解と在宅障がい者の現状を伺う。</p>
		3. 義務教育期間中に於ける職場体験学習について	(1)中学校生徒の職場体験学習について	<p>①生徒である子供たちが、勤労観や職業観等を身に付け、進路や将来の夢や職業の選択、決定等自分自身の生き方について考えることができるようになるには、職場体験学習も一定の評価はするものの、取り組みの狙いと成果・課題について伺う。</p> <p>②生徒に対しての職場体験学習の直近の受け入れ事業、団体等の選定方法と生徒の関わりについて伺う。</p> <p>③生徒に対しての職場体験学習の受け入れ事業所数と、職種そして職場体験日数と体験時間について伺う。</p> <p>④燕市内 5 校の中学校生徒の職場体験学習状況と学年について、そして対象学年全員若しくは希望者のみなのか伺う。</p>
12	藤井 秀人 (一問一答方式)	1. 燕市の農業について	(1)燕市農業の実態について	<p>① 5 年に 1 度公表される燕市における農林業農業センサスの概要について伺いたい。</p> <p>②数字の状況をどのようにとらえているのか伺いたい。</p>
			(2)農業対策の状況について	<p>①組織体制変更により、農商工連携の具体的成果は出てきたのか伺いたい。</p> <p>②農業の振興において本年度における 3 つの事業（チャレンジ・ファーマー支援事業、女性農業者活性化支援事業、若手農業者ネットワーク支援事業）の状況を伺いたい。</p>
			(3)今後の取り組みについて	<p>①2018 年産より生産数量目標の配分がなくなる状況の中で、市としても早めに対応していかなければいけないと考えるがどのような考えがあるか伺いたい。</p> <p>②2018 年以降、農業再生協議会は存続するのか。存続するのであればメンバー構成検討内容も含め見直す考えはあるのか伺いたい。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ続く)</p>

発言の順序	発言者	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
12	藤井 秀人 (一問一答方式)	2. 子どもの貧困問題について	(1) 燕市の現況について	<p>①全国的には6人に1人が貧困の状態と言われているが、燕市においてはどのような認識を持たれているのか伺いたい。</p> <p>②就学援助の数と、全体での割合はどれくらいあるのか伺いたい。</p> <p>③朝食を取っていない児童の割合はどれくらいあるのか伺いたい。</p> <p>④全国的に拡がりつつある、フードバンク子ども食堂について当市も取り組む考えがあるのか伺いたい。</p>
13	小林 由明 (一問一答方式)	1. 都市計画について	(1) 市街地の今後について	<p>①燕駅から中ノ口川側の市街地は、かつては大変な賑わいを見せた、まさに燕の中心地である。 現在、空き家空き店舗の増加や建築物の老朽化、他地域に比べより進む高齢化少子化など、まちの衰退を感じさせる現象が顕著になってきている。市はこの地域の今後の都市形成をどのように進めようと考えているのか、総合計画やマスタープランに示されている方針ではなく、より具体的な構想をお持ちであるか伺いたい。</p> <p>②今後の都市形成を進めていく中では、防災や景観機能を持ちつつ、地域の歴史や風情を活かした、市民の交流や活動拠点となるような広場の設置を進めていくべきと考えているがいかがか。</p>
			(2) 今後の都市形成、景観形成について	<p>①都市の景観が美しいことは、住民にとっても喜ばしいことである。今後の都市形成や景観形成を具現化するにあたり、地域の魅力がより鮮明に表れるよう、デザイナーやアーティストなどの関わりを増やし、燕市民の生活とデザイナーやアーティストなどとの結びつきの機会を、積極的に作っていくべきと思うがいかがか。</p>
		2. 定期露店いちびについて	(1) いちびの今後について	<p>①市内3カ所で行われている定期いちびの存在意義を、市はどのように考えているか。</p> <p>②いちびが行われ始めたころと比べ、まちの様子や人々の生活は変わってきている。まちの未来を考える中でいちびのあり方にも思いを致し、新たな形も模索すべきではないか。</p> <p>③旧燕地区市街地における「三八市」においては、周辺に駐車場がないため、裏通りに買い物客の駐車がなされているのが現状であり、その混雑状況から時として交通安全上極めて危険な状況が発生させることがある上、地域住民にとっても生活に支障が出ている現状がある。 いちびの賑わいと周辺住民の生活に支障を来たすことのない、駐車スペースの確保に取り組むべきではないか。</p>
		3. のら猫問題について	(1) のら猫問題に対する燕市行政の取り組みについて	<p>①燕市におけるのら猫問題はこういった状況にあり、市はどのような考えでどのように取り組んでいるのか伺いたい。</p> <p>②のら猫問題の解決は、個人としての取り組みでは手に負えないことも多く、地域ぐるみで対応しなければならないと考えている。すでにある補助・助成金の他に、地域全体でのら猫対策に動けるような仕組みをつくるべきではないか。</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
14	大原 伊一 (一括質問一括答弁方式)	1. 6月1日付けで農林水産省より発表のあった農地転用許可権等に係る指定市町村の指定について	(1)本市の取り組みについて	<p>①農林水産省6月1日付けで発表のあった都道府県に代わり農地転用許可等の権限を行使する指定市町村の指定について、申請の受け付けを開始した本年4月1日以降、これまでに21の市町(7県)から申請がありました。</p> <p>「これらの申請内容を審査した結果、いずれも指定基準に適合すると認められることから、指定市町村として指定し、本日付けで告示を行いました。」とあるが本市のこれに対する取り組み状況を伺う。</p> <p>②今年4月1日受け付け開始であるが、担当部局は知っていたのか。申請した21の市町に含まれていたのか。</p> <p>③本市における現状の農振除外に対する状況は、多いのか少ないのか。</p> <p>④農林水産省は、第二次の農地転用許可等の権限を行使する指定市町村の指定を行う予定があるのか。</p>
		2. ふるさと納税について	(1)今年状況と今後の見通しについて	①今年状況は、8月末時点で前年と比較した場合、申込件数や金額ベースでの推移は、どのようになっているのか。
			(2)ふるさと納税返礼品について	①新たな魅力作りに対する方策は、あるのか。 ポイント制の導入や、魅力ある新商品の提供、農産物の新たな特産物開拓、ならびに加工品等の取り組み強化を行うなど、新しい取り組みの予定はあるのか。
		3. 農業政策について	(1)商工観光部、農林部の統合の成果と今後の展望について	<p>①商工観光部、農林部が統合して産業振興部となったが産業全体としてどの様な成果が現れ始めているのか。</p> <p>②本市地場産業と農業の関わりが深まっているのか。</p> <p>③産業との絆を強くして、農業分野の加工品を含めた新商品や特産品、開発等の新たな新規プロジェクトや開発補助など、産業と農業を結びつけるような新規事業の計画が、出て来ることを期待しているが担当部局の考えを伺う。</p>
15	長井 由喜雄 (一問一答方式)	1. 介護保険計画と保険制度の後退について	(1)第6期介護保険計画の状況と第7期計画の展望について	<p>①第6期介護保険計画の進捗状況はどうか。計画施設の効率化と人材不足が指摘されるが、どのように対応する考えか伺う。</p> <p>②第6期計画を踏まえたとき、来年から始める第7期計画策定に対し、どのような基本姿勢を持って望むのか伺う。</p>
			(2)昨年開始された介護保険制度の後退の影響について	<p>①燕市において来年度から始める「介護予防・日常生活支援総合事業」について伺う。</p> <p>②特別養護老人ホームへの入所が昨年4月から「要介護3」以上に原則限定されたが、燕市における影響について伺う。</p> <p>③昨年8月から合計所得が160万円以上の方が利用料負担2割となったが、その影響について伺う。</p> <p>④同じく補足給付の対象が厳格化されたが、その影響について伺う。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
15	長井 由喜雄 (一問一答方式)	1. 介護保険計画と保険制度の後退について	(3) 国は来年の通常国会で「軽度者」外しと利用者負担増を計画している。保険者としての考えについてどうか	<p>①国は、要介護1、2の人を対象に、訪問介護の生活援助を自己負担とすること。同じく通所介護を地域支援事業にしている。さらに65歳～74歳までの利用料負担を原則2割とするなど、「介護保険」が「介護保険ではない」状況にしようとしている。保険者として保険料を徴収する立場で、介護保険サービスを大きく制限することに対しどのような問題意識を持つのか伺う。</p> <p>②要支援1から要介護2までの人の福祉用具や住宅改修も自己負担にすることを計画している。燕市での給付実績を伺うと共に、保険者としてこれまでの効果をどう評価されてきたか。これがサービスから外されることに認識についてはどうか伺う。</p> <p>③介護認定者の62%を占める要介護2までの人たちを介護保険サービスから外すことで市民への影響はどう認識されるか。また影響額はどうか伺う。</p>
			(4) 国に対し保険者として声を上げることについて	<p>①上記を踏まえると、被保険者のみならず、家族、そしてこれから対象となる市民への影響は計り知れない。保険者として市民への介護保障の責任をどう考えるか。また、制度の後退とこれによる市民の暮らしへの影響の現実を国に対して示すことが大事ではないか。市はどのような形で国に対して声を上げていくのか伺う。</p>
		2. 「横田切れ」120年シンポジウムから学ぶこと	(1) シンポジウムから「学ぶ」ことは何か	<p>①8月28日に行われた「横田切れ」120年シンポジウムは、地域、学校、報道、行政のそれぞれの立場から示唆に富む取り組みが語られた。市長もパネリストとして参加したなかで、今後に生かすことができるものを得たのではないだろうか。燕市の「防災」の観点からも、現状と照らし合わせ、どんな課題を見い出せたのか伺う。</p>
			(2) 燕市の「川」と市民が共生するとりくみについて	<p>①燕市には大河津分水をはじめ、信濃川、中ノ口川、西川など一級河川がある。市の面積中、これら河川が占める面積、割合はどうか。また、県内自治体の中でその面積・割合の順位はどうか伺う。</p> <p>②かねてから、市民が「川」と触れ合うこと、また「川」を観光資源として生かすことを提起してきた。25年9月議会ではEボートによる川下りを「水になれ親しめて、ボートの操作を習い、また危険と安全などについて考える機会を体験でき、万が一のための水難訓練の一助となるのであれば、より効果的な事業であると考えており、防災に関心を持ち、各自治体や団体などからも多数の参加をいただければ幸いであるというふう考えている」と都市整備部長は答弁し、観光資源という観点では商工観光部長が「イベントの開催や、中ノ口川の自然を観察できる川下りなど、燕市の特色ある観光資源として活用できる素材であると考えている」と答弁している。さらに、氾濫時の対応のひとつとして、ボート所有者の協力を仰ぎ、リスト化することも提起してきた。その後の具体的な取り組みについて伺う。</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
16	柳川 隆 (一問一答方式)	1. 「住みよさランキング」と「ふるさと納税」について	(1) それぞれの実績について	① 「住みよさランキング」は毎年東京の東洋経済新報社が全国 790 市と東京 23 区を対象に行っている。 その中で 2016 年のランキングで燕市は全国順位が 177 位であり、また、「ふるさと納税」においては 2015 年度金額が 58,580 万円、件数で 20,412 件と県内で断トツのトップとどちらも素晴らしい結果を残している。 この要因と今後の取り組みについて伺う。
			(2) 「日本一輝いているまちを目指して」との併用、併記について	① 第 2 次総合計画をはじめとして、あちこちに「日本一輝いているまちを目指して」の標記が見られるが、この文言の意味するところは、ほとんどの一般市民に伝わっていないのが現状と思われる。 そこで客観的な数字で示される前述の 2 つの評価を併用、併記してはどうか伺う。
		2. 燕・弥彦地域定住自立圏共生ビジョンについて	(1) 現行の事業以外の新しい取り組みについて	① 懇談会が設置され、委員が 10 名いるが、今までどのような意見が交わされてきたのか伺う。 ② 昨年度の「ふるさと納税」の実績は、燕・弥彦を合わせると、金額、件数共に県全体の 3 割を占めている。 この高いポテンシャルを、今行っている事業の他に生かしたらと思うが伺う。
17	吉田 勝利 (一問一答方式)	1. 児童の帰宅後の過ごし方と安全について	(1) 児童が遊びから帰宅時の時間帯について	① 児童が遊びから帰宅する時間は何時までと決められているのか。 ② 自転車で遊びに行くことの方が多いと思うがその場合結構遠い所まで行くことも考えられるが、ある程度行く先の制限はされているのか。 ③ これからは日没も早く、5 時頃から暗くなるが、自転車のライトの確認はどのようにされているのか。
		2. 産業史料館の事業について	(1) 発行しているポスターの掲示の件について	① ポスターの発行枚数はどのぐらいか。 ② ポスターの掲示依頼先はどのようにしているのか確認されているのか。 ③ 掲示板の大きさによっては、依頼されたポスターが何枚も掲示できないときもあるがいかがか。
18	宮路 敏裕 (一問一答方式)	1. 教育環境の整備、充実の施策について	(1) 学校施設設備の整備について	① 教育環境の整備や充実、とりわけ学校施設設備の整備を図ることは、小・中学校の児童・生徒が安全・安心な環境で学べることにつながることである。そのために、本市においても市内各学校の実情に則し、校舎の耐震補強工事や運動場の改造、グラウンドの整備工事などが行われてきた。このような先を見通した整備とともに、毎年、限られた予算の中で、整備促進させていく分野もある。その中で、校舎やグラウンド内外の草刈りや樹木の管理、囲いなどの整備について、各学校現場から要望は上がっているかどうか伺う。 ② 文部科学省では、公立学校施設における空調(冷房)設備の設置状況について、全国調査を実施し、公表している。直近の平成 26 年 4 月 1 日現在の結果では、公立小中学校における普通教室・特別教室合わせて、設置率が 29.9% で、前回 3 年前調査に比べ、11.0 ポイントと二桁増になったことが判明した。本市において小・中学校の普通教室、特別教室別の空調設備の設置率について伺う。

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
18	宮路 敏裕 (一問一答方式)	2. 障がい者福祉施策について	(1)障がい福祉サービスの充実について	<p>①本市では平成 26 年度「燕市障がい者基本計画・第 4 期燕市障がい福祉計画」の策定にあたり、アンケート調査を行い、障がい者や家族を取り巻く状況把握に努めてきた。その上で、計画の基本目標の中では「障がいがある人等が地域で安心して暮らし続けるためには、必要とするサービスを適切に提供することが求められる」と謳っている。</p> <p>障がい者タクシー利用券及び自動車燃料費助成券の発行も大変必要とされるサービスである。現在、このサービスについて、より充実してもらいたいなどの要望は利用者からあげられているか。あるいは、要望の聞き取りなど行なっているか伺う。</p> <p>②タクシー利用券、燃料費助成券発行のサービスは、自治体ごとの施策であり、助成内容は県内、また全国でまちまちである。計画の基本目標では、福祉サービス等の量的・質的充実を図ることも明記されているが、今後、このサービスについて具体的充実策等を検討しているのか伺う。</p>
19	山崎 光男 (一問一答方式)	1. ふるさと納税と燕市の活性化について	<p>(1)燕市ふるさと納税の現状と今後について</p> <p>(2)交流・応援(燕)人口増加につながる「体験型」返礼品の導入について</p>	<p>①昨年度、燕市のふるさと納税寄附額は県内トップの約 5 億 8,500 万円に達した。今年度は 7 月末時点で寄附額が 9,466 万円と、昨年度同比比で約 2,500 万円、寄附した人も 3,969 人と、同比比で 700 人ほどそれぞれ減少しているが、この現状や原因をどう捉えているか伺う。</p> <p>② 8 月 6 日に明治神宮球場で行われたイベント「燕市 Day」に、ふるさと納税 PR のために担当者が行っているが、このときの成果や今後の取り組みについて伺う。</p> <p>③昨年度、寄附額、寄附件数とも過去最高を記録したふるさと納税は、今後お金の集め方ではなく、いかに使うかが重要になってくる。寄附が急増した半面、有効な使い道を決め切れていない自治体も少なくない。燕市では申し込みの際の使い道に「市長にお任せ」という項目があるが、全体的に寄附金は有効に活用されているか伺う。</p> <p>④近年の過熱したふるさと納税ブームで、寄附する人は返礼品に目を奪われがちで、返礼品競争が社会問題化している。燕市は返礼品の選考方法を見直し、選考委員会を設けたが、今後の返礼品の拡充について伺う。</p> <p>⑤燕市の返礼品が新潟県の返礼品にもなっており、寄附先をどちらに選ぶか、選択の余地があることについてどう考えているか伺う。</p> <p>2015 年度前半から全国的にレジャーやアウトドアなどで、寄附先を直接訪れる「体験型」の返礼品が急増し、県内でも三条市、長岡市、柏崎市、佐渡市などが導入し、好評を博している。背景には、一度実際にその土地を訪れてもらうことによって魅力を感じ、愛着を持ってもらい、交流人口の増加ゆくゆくは移住・定住につなげたいという考えがある。このことから、</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ続く)</p>

発言 の 順序	発 言 す る 議 員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
19	山崎 光男 (一問一 答方式)	1. ふるさと 納税と燕 市の活性 化につい て	(2)交流・応援 (燕)人口増 加につなげ る「体験型」 返礼品の導 入について	①稲刈り体験や金属加工体験など、燕市の伝統を肌で感じてもらう「体験型」を導入できないか。 ②リオオリンピック銅メダル獲得で注目され、本市でも盛んなカヌーや、リオパラリンピックモンゴルチームとの交流があるアーチェリーなど、スポーツの「体験型」を導入できないか伺う。